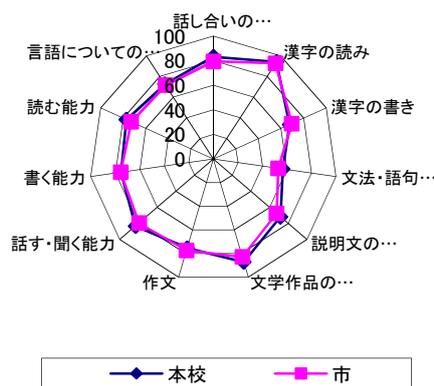


# 宇都宮市立古里中学校 第1学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内容の聞き取り	83.2	79.5
	漢字の読み	94.1	92.6
	漢字の書き	67.6	69.5
	文法・語句に関する知識	56.5	52.9
	説明文の内容の読み取り	71.7	67.4
	文学作品の内容の読み取り	87.2	82.9
	作文	75.5	77.4
観点別	話す・聞く能力	83.2	79.5
	書く能力	75.4	75.6
	読む能力	77.3	73.1
	言語についての知識・理解・技能	72.5	71.5



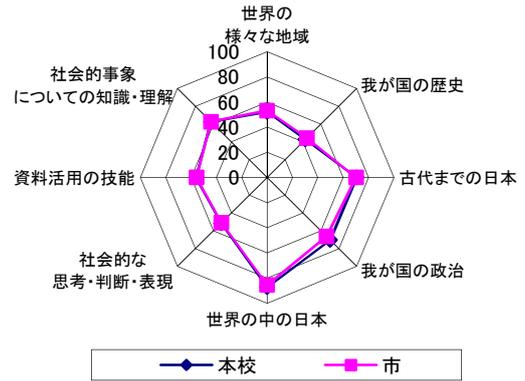
## ★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容の聞き取り	正答率は宇都宮市と比して3.7%高い。話される話題の内容を正確に捉えること、話し方の工夫を聞き取ることにについて出題された問題の正答率は高かったが、話し合いの話題や方向を的確にとらえて、自分の考えをまとめる問題の正答率は低かった。	友人の発表を聞き、的確に話題の内容と方向性をとらえ、さらに友人と自分の考えの共通点や相違点と見つけていく活動の中で、自分の考えをまとめる機会を多く取り入れる。
漢字	漢字の読みの正答率は宇都宮市と比して1.5%高い。平均的である。しかし漢字の書きの正答率は宇都宮市と比して1.9%低い状況である。	漢字の小テストを継続して行っているが、そこでも書きの正答率は低い。書き取りの練習時間を設け、繰り返し学習する指導をしていく。また家庭学習との連動を試み、漢字練習を習慣化させていきたい。
文法・語句に関する知識	正答率は宇都宮市と比して3.6%高い。特に文節・単語についての文法分野は理解している。しかし語句分野である故事成語についての理解は不十分であった。	文法については、問題演習を繰り返し行ったことが成果として現れたので、継続させていきたい。語句については、授業の中で辞書を使用し語句調べを行っているが、さらにその調べた語句を使用し短文を作る学習を通して、語句の習得に取り組んでいきたい。
説明文の内容の読み取り	正答率は宇都宮市と比して4.3%高い。文章の展開や構成を正確にとらえることは十分に理解している。しかし問題に即した答え方ができていない状況である。大問4の(4)②の問題において、「なぜか？」という問いなので、「～から」と解答しなければいけないが、できていないことがそれにあたる。	説明文において、文章の構成を考慮することや、文章の展開から内容をとらえる学習の成果として現れたので継続させていきたい。しかし、問題に即した答え方ができていないことは大きな問題であり、定期テストでも頻繁に見られる。単元テストを設け、答え方を指導できる機会を持つことや、生活の中でも会話において正確な答え方を指導することで身につけさせたい。
文学作品の内容の読み取り	正答率は宇都宮市と比して4.3%高い。特に作品の展開を考えながら主題を考えることが身につけている。	場面や作品全体の展開を考えながら読むことができ、主題を考えるということが身につけている。今後も継続的にそのような読み方の指導をしていきたい。またさらに登場人物の心情をとらえるためには発言や行動だけでなく、背景の描写にも気づかなくてはならない。これからは広い視野を持って内容理解に取り組ませていく。
作文	正答率は宇都宮市と比して1.9%低い。全体を見通して、書く事柄を整理することができていない。それに伴い、何も書けていない生徒も多い状況である。また目的や意図に応じて、根拠を示しながら自分の考えを書く力がついていない。	「書く」ということに抵抗がある生徒が多い状況である。構成メモを作成してから文章を書く活動を通して、書く事柄を整理する能力を身につけさせたい。そして「自分で書けた」という成功体験を多く持つことで、書くことへの抵抗を和らげていきたい。また常に根拠を持った考え方を意識させることで、根拠を示して自分の考えを書くことへつなげていく。

# 宇都宮市立古里中学校 第1学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	世界の様々な地域	52.2	53.2
	我が国の歴史	42.8	44.3
	古代までの日本	70.6	70.2
	我が国の政治	70.4	66.3
	世界の中の日本	87.4	85.6
観点別	社会的な思考・判断・表現	51.4	51.0
	資料活用 of 技能	56.0	55.8
	社会的な事象についての知識・理解	62.7	62.7



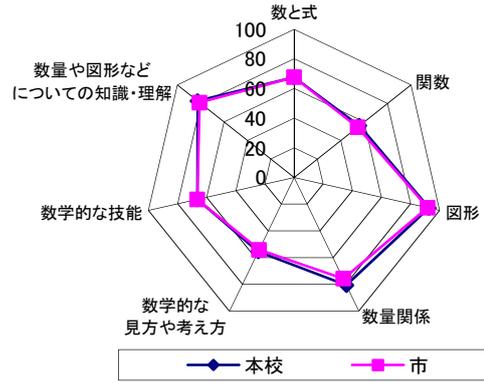
## ★指導の工夫と改善

領域		本年度の状況	今後の指導の重点
地理	世界の様々な地域	この領域の大問は3問で、小問は11問であった。思考を問う問題では、市を1～3%ほど上回ったが、記述式の問題でやや正答率が低かった。技能を問う問題では、地球儀や地図を使った読み取り問題で全国を10%近く上回る問題があった。また、市と比べても3%ほど高かった。一方で、大陸と大洋を答えさせる基本的な問題での正答率が市とほぼ同程度だったものの、全国より	地図帳や地球儀を活用し、ある国の位置関係を的確に表現したり、地図帳の索引を使用するなどの学習を取り入れていく。また、世界各地の伝統や生活について、写真資料を活用することで内容の定着をはかっていく。さらに、ある地理的事象が見られる理由などを自分の言葉で表現する学習を行い、記述に慣れさせるよう指導していく。
	我が国の歴史	小学校6年生で学習した知識をもとに答える問題で、4問出題された。正答率はいずれも全国・市と同じ程度か、または低かった。	基礎的・基本的な事項についてはある程度定着が見られるので、どうしてその事象が起きたのか、なぜその人物がその政策を行ったのかを自分の言葉で表現するなど、基礎・基本を活用した学習活動を増やしていく。我が国の歴史の領域で正答率が低かったため、小学校との接続を意識した学習も取り入れたい
歴史	古代までの日本	知識を問う問題が小問9問中7問出された。年表を見て歴史的な事象が起こった時期を答えさせる問題では、市より10%近く低い結果となった。一方、古墳文化や大和政権についての問題は全国・市を上回る正答率であった。	
	我が国の政治	日本国憲法の三大原則についての正答率が、市と比べると高かったものの、全国よりも4%程度低かった。一方で、身近な事例と三大原則を結びつける問題は全国・市よりも高い正答率であった。天皇の地位について問う問題は、若干の差で全国・市を上回った。	日本国憲法や国際交流は生徒にとってより身近な事例として捉えることができる。そのため、新聞記事などを活用して、これらの問題についての理解をはかるなどの工夫を取り入れていく。また、日本が世界でどのような活躍をしているかやどのような課題を抱えているかなどについても取り上げることで、多面的な視点を養っていく。
公民	世界の中の日本	技能を問う問題では、約8割の生徒が正答を選んだ。ある程度グラフを読み取る力がついていると思われる。国際交流の観点から思考力を問う問題では、97%の生徒が正答を選んだ。日頃から国際交流に対して関心を寄せていることが、高い正答率につながったと考えられる。	

# 宇都宮市立古里中学校 第1学年【数学】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と式	67.5	67.6
	関数	55.9	54.4
	図形	92.6	91.7
	数量関係	80.7	75.8
観点別	数学的な見方や考え方	55.5	54.2
	数学的な技能	66.5	66.6
	数量や図形などについての知識・理解	82.7	81.1



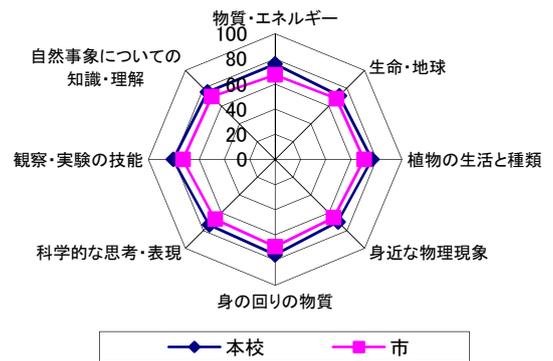
## ★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	正答率は宇都宮市の平均とほぼ同じである。今回のテストでは大問17問中13問が数と式の領域の問題であった。細かく見てみると、1次方程式に関する問には全て市平均を上回る正答率であったが、正負の数や式の計算問題の正答率は市平均より低い。また、説明をする問題は市平均を上回ってはいるが3分の1程度の正答率であり、また、時差に正負の数を利用する問題の正答率で	授業中、学習プリントを利用して計算練習をたくさんやってきたが、少し前の学習内容になると計算の正確さに欠ける面がある。継続的な反復練習としての計算練習をさせていきたい。また、正負の数や文字式を活用する問題にもっと触れさせ、活用することで、単なる計算では味わえない、数学の楽しさを感じることでできる授業を展開させたい。
関数	関数の問題は小問1つ(大問2つ)で、比例・反比例の問題であった。市平均よりわずかに高い結果となっている。細かく見ると、小問1の表から関数を見出し式で表す問題は9割近くの生徒が正解している。しかし、式にX座標を代入してy座標を求める問題の正答率は市全体の平均より低い結果であった。	関数を学ぶ上で大切な表・グラフ・式について、見方、表し方の基本から一歩踏み出して、これらを使った様々な問題に触れる機会を多く設け、もっと表・グラフ・式と親しめる授業展開を工夫していきたい。
図形	図形の問題は大問2つで、どちらも小学校の内容の問題であった。市平均よりわずかに高い結果となっているが、大問ごとに見ても、どちらも市平均を上回る結果であった。	小学校の内容をよく理解しているため、中学校の図形にも興味関心を持って生徒が取り組めるような授業を展開し、図形の学習が好きな生徒を増やしていきたい。
数量関係	数量関係の問題は大問1つ(小問2つ)で、小学校で学んだ場合の数を求める問題であった。小問2問ともに市平均より上回っている。	小学校の内容をよく理解しているため、2学年で学ぶ確率の学習では、この力を更に伸ばしていけるよう、教材を工夫して授業を進めていきたい。

# 宇都宮市立古里中学校 第1学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	物質・エネルギー	75.9	67.3
	生命・地球	71.6	68.4
	植物の生活と種類	76.5	70.2
	身近な物理現象	70.1	65.4
	身の回りの物質	75.8	69.3
観点別	科学的な思考・表現	73.5	67.1
	観察・実験の技能	80.4	72.8
	自然事象についての知識・理解	75.7	70.8



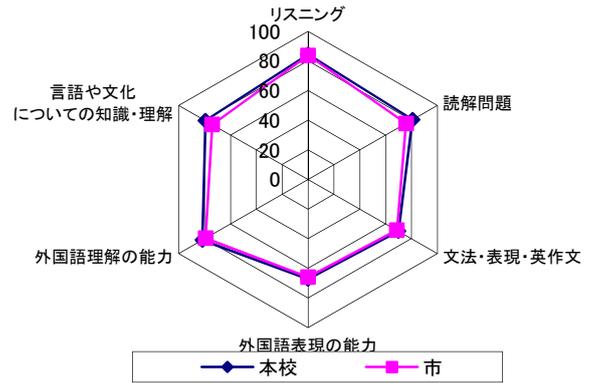
## ★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	正答率は宇都宮市の平均より8.6%高い。小学校6年生で学習する内容であった。問い3の「てこ」の問題では、てこの原理を用いておもりの重さを計算する問題では正答率が高かったが、身近な道具から力点・支点・作用点を見つける問題では正答率が低かった。問い4の「電気」の問題では、豆電球と発光ダイオードの消費電力の違いを説明する問題で正答率が低かった。	「てこ」については中学3年で学習するので、練習問題を多く解くことで理解を深めたい。「電気・電気エネルギー・エネルギーの変換」は中学2年・3年で学習するので、その都度今回の調査で理解度の低かった内容を丁寧に説明し、理解を深めたい。
生命・地球	正答率は宇都宮市の平均より3.2%高い。小学校6年生で学習する内容であった。問い1の「地層のでき方」の問題では、地層が粒の大きさの違いによってできることは理解しているが、大きい粒が早く沈むので下に来ることは理解が不十分であった。問い2の「地層と堆積岩」の問題では、それぞれの堆積岩の特徴を答える問題の正答率が低かった。	「地層・堆積岩」の学習は定着度調査実施後、中学1年で学習する。今回の調査で理解度の低かった内容を重点的に指導したい。
植物の生活と種類	正答率は宇都宮市の平均より6.3%高い。問い5の「植物の観察」の問題では、ルーペの使い方の正答率が低かったが、他は良好であった。問い6の「植物の分類」の問題では、実際に植物を分類することはできるのだが、単子葉類の葉脈や根や維管束の特徴を答える問題の正答率が低かった。問い7の「呼吸と光合成」の問題では、理解度が高かった。	「ルーペ」は今後も生物の観察等、使う機会があるので、そのつど使い方の復習をし、正しく使わせたい。「単子葉類・双子葉類」の特徴については、学習から時間がたっており、忘れてしまっている生徒も多いと考えられる。時間がとれる限り、何度も復習する機会を持ちたい。
身近な物理現象	正答率は宇都宮市の平均より4.7%高い。問い10の「光の反射、屈折」の問題では、全反射についての理解度は高かったが、入射角と屈折角の関係を答える問題が正答率が低かった。	「光の屈折」では、空気中からガラスでは、入射角 > 屈折角、ガラスから空気中では、入射角 < 屈折角の関係であり、混乱しやすい。時間がとれる限り、何度も復習する機会を持ちたい。
身の回りの物質	正答率は宇都宮市の平均より6.5%高い。問い8の「金属・プラスチック」の問題では、見分け方は理解できているが、密度と水に浮くかどうかの関係を答える問題で正答率が低かった。問い9の「気体の性質」の問題では、全体的に理解度が高かった。	物質の密度が1未満であれば、水に浮く。定着度調査実施後に、「水圧」や「浮力」を学習しているので、現在は理解度が高まっていると考えられるが、時間がとれる限り、何度も復習する機会を持ちたい。

# 宇都宮市立古里中学校 第1学年【英語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	リスニング	84.3	83.8
	読解問題	80.7	75.7
	文法・表現・英作文	69.8	68.6
観点別	外国語表現の能力	67.2	65.9
	外国語理解の能力	81.8	79.2
	言語や文化についての知識・理解	79.4	74.2



## ★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
リスニング	正答率は84.3%と、市の平均をやや上回っている。対話文の内容を聞き取る力は定着しているが、英文の要点を聞き取り、記述することが苦手なようである。授業では、穴埋め形式で英文の内容を聞き取る活動を行っている。	イントネーションや音の連結を学ぶことで英文が聞き取れるよう、英語による授業やALTとの対話活動を引き続き行っていく。また、英文のキーワード・要点を聞き取る能力が身につくよう、ワークシートを工夫し、聞かせる活動を多く取り入れる。
読解問題	正答率は市の平均を5.0%上回った。長文や対話文の読み取る力はおおむね定着していると考えられる。授業では、本文の要点をまとめたり、指示語の内容を確認したりする活動を行っている。	引き続き、教科書の文中の指示語を明確にし、長文の大まかな内容をつかみまとめる活動を取り入れる。
文法・表現・英作文	正答率は市の平均を0.6%上回った。文法・慣用表現の知識理解はどの問題においても市の平均を上回っている。自分のことについて自由に書くことは得意であるが、場面に応じた英作文が苦手なようである。授業では、小テストや基本文を使ったインタビュー活動、発展的な英文を書く活動、問題練習等を行っている。	文法や語彙等を定着させるために、単語・単元テスト等を通してさらに練習量を確保する。また、生徒の興味あるものや身の回りのものを題材にして、引き続き英語で書く習慣を身につけさせていきたい。